

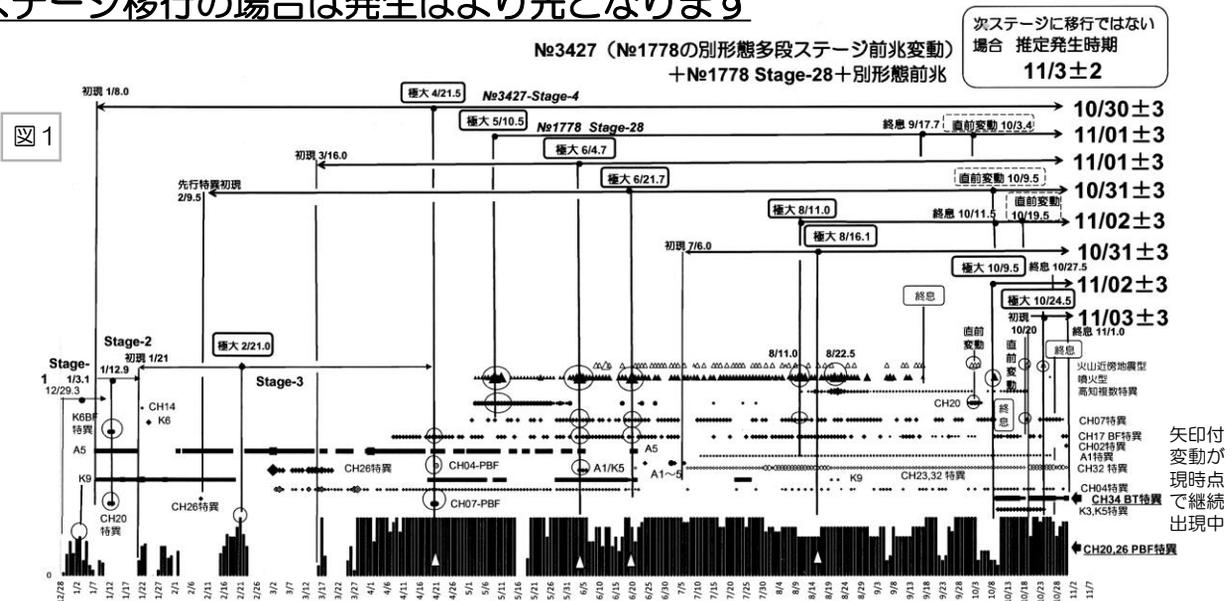
ハヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報等のみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。本年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様へ配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

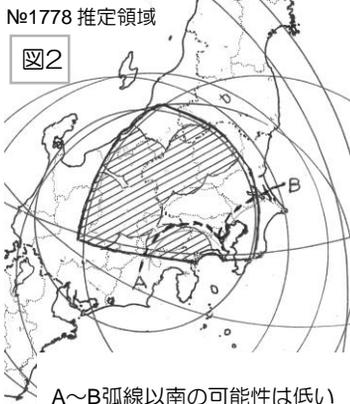
### 10/31夜一度静穏化した変動が再出現 11/1 未明現在継続中 次ステージの変動出現なのか、余震の多い地殻地震は静穏期が認められないためか 現時点では判断困難 次ステージ移行の場合は発生はより先となります



10/31夜20時半頃、継続出現していた変動が一気に静穏化。最後の極大は若干修正で10/24.5認識。11/3±3発生の可能性を示すと考えられたが、22時過ぎから再び変動が出現。11/1未明現在継続中です。他の変動が示す11/1～11/2の可能性も鑑み、11/3±2 対応地震発生の可能性は否定できませんが、現段階で全ての変動が静穏化していない理由は3つ考えられます。

- ①次ステージの変動が出現している可能性
- ②余震の多い地殻地震は静穏期が認められない（阪神・胆振東部等過去例）ために継続出現している可能性
- ③現在の変動変化の認識が正しくない可能性

現時点11/1未明段階では判断できません。11/3±2で次ステージ極大が出現する可能性もあり得ます。残念ながらホームページ担当の方が出張で11/1朝～11/4深夜までアップロード更新が不可とのことなので、今後の変化や解析結果は日々配信の観測情報のみでしか公開できません。お許しください。11/5迄に発生が無ければ次ステージに移行と判断下さい。11/5以降に続報予定です。



- 推定領域：図2の太線領域内＝大枠推定領域  
図2斜線域＝可能性が考えやすい推定領域 震源が火山近傍領域を含む可能性高い
- 推定規模：主震 M8.0±0.3 または  
複合の場合＝M7.4±0.3 + M7.3±0.3 他等  
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で約150km程度となる様な複合地震活動の可能性
- ※直近では複数日火山噴火型変動は観測されていないため、火山噴火の可能性は低い
- 推定時期：次ステージに移行しない場合は（※次ステージ移行の場合は続報予定）  
11月3日（誤差11月3日±2）対応地震発生の可能性有
- 推定地震：震源浅い陸域地殻地震
- 推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3